

2019年も 残すところ2週間余りとなりました。あっという間のような気がしますが、ふと振り返ってみますと、様々な出来事が次々に思い出され、時の流れの速さを実感します。5月、平成から令和へと元号が変わり、時代の大きなバトンが受け継がれた記念の年でした。“天皇制”というこの国の制度、歴史・伝統・文化などについて考える時を与えられました。そして、これまでには体験したことがない激しい台風の襲来と まるで狂気に満ちたような豪雨が度々繰り返され、不安と恐怖に震え続けた日々は、痛みとなって心に刻まれています。人知を超えた果てしなく深い御心によって なされている自然の営みの中に在って生かされ与えられている 自らの命と 人としての分際を、痛切に思い知らされた1年でもありました。来年は いよいよ2020年。穏やかな笑顔があふれる明るい歩みとなりますよう 祈ります。

さて、先日の クリスマス保護者会には お忙しい中 大勢の皆様方にお集まり頂きましてほんとうに ありがとうございます。1年に1度、あのような形で子ども達を真ん中にしてこれから訪れるクリスマスに想いを馳せながら 共に分かち合えます幸いに心より感謝です。お話ししましたとおり、今年は12月1日(日)より、全世界のキリスト教教会や 施設に於いてクリスマスを待つ『待降節(アドベント ウィーク)』の嬉しい4週間が スタートしました。つのびえ保育園は、世界にちょっぴり先駆けて11月29日(金)から キャンドルの1本目に温かな炎が灯されました。毎週1本ずつ増えていくアドベント・クランツの明るく輝く光は希望であり、平和であり、神様から注がれる愛を象徴し、待つことへの喜びに繋がっています。早いもので、今日の礼拝で3本目のキャンドルに火が点きました。間もなく クリスマスです。聖書には「すべての人を照らす そのまことの光が世に来ようとしていた。(ヨハネ1:9)」

「この方にいのちがあった。このいのちは 人の光であった。光はやみの中に輝いている。やみは光に打ち勝たなかった。(ヨハネ1:4)」とイエス・キリストを光として例える表現があります。また、イエスさま自身も、十字架に掛かれる前夜、なぜ自分が この世に来たかその真意(神様の御心)を弟子達に直接 語られています。「わたしは光として世に来ました。わたしを信じる者が、だれも やみの中にとどまることのないためです。だれかが、わたしの言うことを聞いて それを守らなくても、わたしは その人を さばきません。わたしは 世をさばくために来たのではなく、世を救うために 来たからです。(ヨハネ 12:46~47)」と。神様は、光を見失い、歩む道に迷い、生きる意味を見出せず、苦しみ、悩み、佇んでいる私達の不安や渇いた心に“わたしがいつも見守っているから大丈夫だよ”とご自身の存在を知らせ私達一人一人の心に 愛を注がれようと、暗闇と化した荒んだ世の中に、イエス・キリストを輝く光として与えてくださいました。神様は ご自分が造られたこの世を愛しみ、その中でも私達人間への愛がどれほどに深く寛く大きなものであるかを 何とかして私達に伝えたいと私達にわかる形で その愛を表すため、私達の心の闇に光を与え、見えるようにするためにご自分の大切なひとり子であるイエスさまを、私達と同じ人として 誕生させてくださった、これが クリスマスです。クリスマスは 神様が私達への深い愛を示してくださる日なのです。

Last (1番後ろにいる存在)・**Lost** (失われ、忘れられた存在)・**Least** (最も小さい存在)に、**Love** (愛)と、**Life** (命)と、**Light** (光)を与えるため、イエスさまは来られました。2019年前の 世界で最初のクリスマスの出来事は、まさにこのメッセージそのものです。私達は皆、一人残らず神様の愛の御手の中で生きています。神様の光の中で輝き、命の息吹を与えられています。クリスマスは、その御心に立ち返り、喜びを分かち合い、感謝する時です。今年も、年長組12人の子ども達が メッセージャーとして“真実(ほんとう)の出来事”を祈りをこめ、一生懸命に伝えてくれることでしょう。そのページェントを通して 一人一人が神様の愛の光に満たされますよう お祈り致します。世界中の人々の平和と共に…。(石田 記)